

1 生徒の実態 (実態把握・調査結果の分析)

(1) 生徒の実態

1年生：各自が自分のペースで製作し、授業時間を有効に使って最大限の成果をあげている。目標を持って授業に望む生徒も多い。

2年生：概ねよく授業に取り組んでいる。美術に興味を持つ生徒も多く、他の生徒の見本となっている。

3年生：真面目によく取り組んでいる。よく努力し十分に目標を達成している。

(2) 調査結果の分析

1年生：アンケートの結果は概ね良好であった。家庭学習については、教科の特性上、日常生活で美術的な事柄に興味を持つことが重要であると伝えたい。授業には楽しんで取り組み、成果をあげている。

2年生：アンケートの結果は概ね良好であった。家庭学習については、教科の特性上、日常生活で美術的な事柄に興味を持つことが重要であると1年次から伝え、理解している生徒が少しずつ増えている。一部の生徒に忘れ物が見受けられ、指示の徹底を図りたい。個性を生かした作品制作の楽しさを理解する生徒が増えている。

3年生：アンケートの結果は概ね良好であった。積極的に製作に取り組む生徒がいて、家庭学習に関しては、課題や宿題がないため、低い評価になっている。普段から美術的な事柄に興味関心を持つことが大切であるということを再度伝えていきたい。1年次からの学習の積み重ねにより自己の技能への自信を感じられる生徒も増えている。

2 指導上の課題

1年生：全員がまじめに取り組み、ほとんど全員の作品の質が標準以上である。また、生徒一人ひとりが個性を生かした作品を製作してお互いに良い刺激を与え合っている。

2年生：全員がまじめに取り組み、ほとんど全員の作品の質が標準以上である。また、目指す方向性や好みのはっきりした生徒が多く、互いの個性を認め合う姿勢に繋がっている。今後は、作品の背後にある歴史や文化についての興味・関心や理解を深めていきたい。

3年生：全員がまじめに取り組み、ほとんど全員の作品の質が標準以上である。反面、全体の人数が少ないため、突出した高レベルの作品もみられない傾向があったが、最高学年に進級し、より高いイメージに挑戦する姿勢が見られるようになった。今後は、作品の背後にある歴史や文化についての興味・関心や理解を深めていきたい。

3 授業改善の視点とその方策

・指導計画・評価計画の見直しと提示

3学年を系統的にとらえ、生徒の発達段階を考慮し、各領域の指導時期や授業内容を計画していく。学習目標や評価規準を、年間を通して、学期や毎時間毎にさらに明確に提示していく。

・明確な目標設定による意欲の喚起

各課題において、達成の容易な課題から提示することにより、より達成感を得やすくする。高度な内容の課題においても、スモールステップによって生徒が着実に前進できる授業構成を目指す。

・板書、教材、資料の研究と開発

生徒の関心意欲を引き出せるような魅力的な教材を開発する。生徒の視点に立った視覚的で理解しやすい板書や資料を提示していく。製作の資料提示等には、コンピューターを活用して作業の効率化を目指す。

・描画力・表現力の向上と鑑賞の能力の育成

自己表現の能力、特に描画力の向上を図るために、観察して描かせる機会を多く与える。鑑賞学習においては考察力、発表力を育む機会を設定し、理解を推進する。

4 その他

進度や理解度に課題が見られる生徒には、昼休みや放課後に補習を実施する。

各種コンクールや作品の募集を紹介し、持っている自分の力を発揮させ力を高めさせる。